

第40回日本医療福祉設備学会に向けて（その2）

—生活支援・医療連携・生きがい作り実現のための医療・福祉設備について—

第40回日本医療福祉設備学会

副会長 本多 敦

株式会社日建設計 設備設計部門 副代表

1. 学会のメインテーマとその狙い

今回の学会のメインテーマは、「生活支援・医療連携・生きがいづくり実現のための医療・福祉設備～高齢者向け見守りネットワークとICT～」となっています。従来のテーマが医療施設・福祉施設やその施設内の医療設備などを中心としてきたことを考えると、もう少し広い範囲である「地域」を対象としています。施設内設備だけでなく、地域と連携したシステムや設備を対象としています。医療施設・福祉施設を含んだ「地域」を対象とすることで、本学会に関係する人々の輪を広げ、今まで以上の多彩な方々の参加を期待するものです。

サブタイトルにある「高齢者向け見守りネットワーク」は、地域の人々による人的ネットワークと施設内外のシステムや設備との連携が重要となります。ここで対象とする「高齢者」は、「医療施設に通う方」だけでなく、「健康で体力のある方」・「健康だが少し体力の落ちてきた方」など幅広い方々を想定しています。高齢者向けの見守りネットワークの全体システムイメージを（図1）に、そのシステムを構成する機能について（表1）に示します。

これらの機能の内、「ニーズキャッチ支援機能」・「コーディネート支援機能」・「サービス提供支援機能」については、人による対応が主体となります。「センシング支援機能」と「共通基盤機能」は設備や通信ネットワークなどが主体となる機能です。この後者の部分である設備や通信ネットワークに関わる部分は、当学会が得意としノウハウを発揮できる部分であると考えます。高齢者向けの見守りネットワークを含めた、地域連携のシステムを「地域医療福祉システム」と位置づけ具体的なシステム・設備を構築するために必要な要件や機能を議論し整理することが当学会での重要な課題となります。

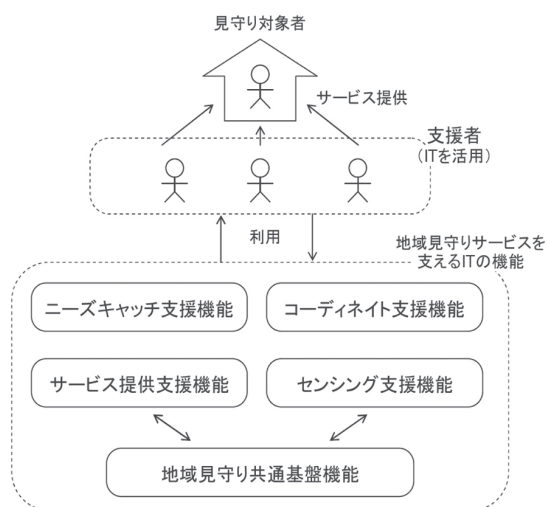


図1 高齢者向け見守りネットワーク全体システムイメージ¹⁾

表1 システムを構成する機能¹⁾

機能	概要
ニーズキャッチ支援機能	見守り対象者の支援のニーズをキャッチし、地域見守りサービスの利用に繋ぐまでを支援する機能
コーディネート支援機能	見守り対象者の支援のニーズと地域見守りサービスをマッチングし、支援やサービスの利用までを支援する機能
サービス提供支援機能	多様な地域見守りサービスを連携させ、サービスの提供を通して得られた情報を用いた見守りを支援する機能
センシング支援機能	バイタルセンサやテレビ電話などを用いた見守りを支援する機能
共通基盤機能	サービス提供記録の登録と支援者間の情報の共有など、ITの機能を支える共通基盤機能

2. 地域医療福祉システムについて

ここでの「地域医療福祉システム」は、医療情報システムの一つで、基盤の通信ネットワークを利用してナースコールやバイタルセンサなどの情報をやり取りできるシステムを想定しています。例えば病室とスタッフステーションを繋いでいたシステムを、住宅と医療施設との間で利用することを想定しています。全体イメージを（図2）に示します。図からもわかるように連携すべき施設や組織が多様多様となってきます。これらの施設・組織の間で適切に情報のやり取りができることは非常に重要なことです。しかし、現状の地域医療福祉システムでは情報のやり取りに関する基準となる方法や手法が整備されていません。また、そのシステムや設備が高価になる傾向にあります。一般家庭で扱える価格を意識したものにする必要があります。当学会では、地域医療福祉システムの「性能」や「機能」だけでなく「価格」も重要な課題として捉え議論をしていくことを考えています。

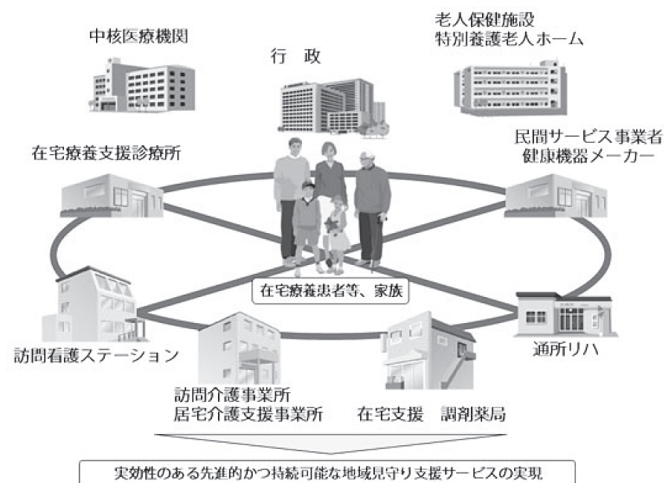


図2 地域医療福祉システムイメージ²⁾

3. 地域医療福祉システムを実現するために

地域医療福祉システムを実現するために、本年の学会のテーマに則し以下の2つのワーキングを立ち上げる予定です。

① 高齢者向け空間のシステムデザイン

高齢者向け住宅に必要なシステム（設備）の設計（デザイン）はどうあるべきかを考える WG です。照明設備・空調設備・衛生設備などのベースとなる設備から、ナースコール・バイタルセンサなどの医療システムまでを網羅し、健常者から要介護の人までを対象として、設計のグレードや手法を整理します。ユニバーサルデザインとの整合も検討します。

② 地域医療連携システムの構築

高齢者向け住宅と医療施設などの関係施設を結ぶシステムをどのように構築すれば良いかを考える WG です。通信ネットワークだけでなく、駆けつけ対応や食事のデリバリーなど対象を幅広く設定し、最も効率よく効果的なシステムはどうあるべきかを検討します。

これらのワーキングの検討事項は、すでに住宅メーカーやヘルスケアメーカーなどで検討され製品化されているものもあります。しかし、それらの製品はメーカーの独自のノウハウにより開発されており、業界や学会での標準化などはあまりされていません。当学会では、そのようなメーカー各社のノウハウを持ち寄り、建築設計者や通信事業者など今まであまり接点のなかったメンバーでの議論を行うことで、新たな展開や学会標準化を目指すものです。

(学会開催案内)

2011年11月9日(水)～10日(木)に第40回日本医療福祉設備学会が、一般社団法人日本医療福祉設備協会（HEAJ）主催により東京ビックサイト東展示棟で開催されます。併設展示 HOSPEX Japan 2011は、社団法人日本能率協会との共催により2011年11月9日(水)～11日(金)に開催されます。

参考文献

1) 平成21年度 経済産業省 地域見守り支援システム実証事業 事業成果報告書

2) 日本システムサイエンス株式会社 平成21年度 経済産業省 地域見守り支援システム実証事業の委託